

令和3年度 第1回 静岡市健康福祉審議会 児童福祉専門分科会 議事要旨

1 日 時 令和3年7月26日（月）午後7時00分～午後8時30分

2 場 所 静岡市役所 本館3階 第1委員会室

3 出席者（委員）白木会長、石川委員、大澤委員、岡本委員、上牧委員、下山委員
戸塚委員、長阪委員、中島委員、糠谷委員、早川委員、増田委員
松田委員、三森委員、宮下委員

（事務局）青野子ども未来局長、橋本子ども未来局次長、
原田子ども未来課長、片山子ども未来課主幹兼企画係長、
阿部青少年育成課長、
高山子ども若者相談担当課長兼子ども若者相談センター所長、
堀理事（幼保支援課長事務取扱）、海野こども園課長、
萩原子ども家庭課長、松下参与兼児童相談所長、
秋山理事（教育総務課長事務取扱）、栗田児童生徒支援課長、
戸塚参与兼障害福祉企画課長、望月障害者支援推進課長、
その他事務担当職員

4 傍聴者 なし

5 議 題 （1）会長の職を代理する者の指名について
（2）保育所等の設置認可等に係る意見聴取について
（3）「静岡市子ども・子育て・若者プラン」の実績報告及び達成状況につ
いて

6 会議内容

■議題（1）会長の職を代理する者の指名について
異議なし（松田委員を会長代理として指名）

■議題（2）保育所等の設置認可等に係る意見聴取について

○大澤委員（質問）

資料1-2に記載の3. 新たに設置認可等をした場合の確保方策にある3号0歳児の不足分18名と3号1・2歳児の不足分31名については既存保育施設の定員増等により確保すると

あるが、既に計画されているのか、それとも今後計画していくということか。

⇒子ども未来課企画係長

今回の鳩の子保育園上足洗園を整備した場合であっても不足する部分であるため、城北区域の既存施設に対して定員の増を今後お願いしていくこととしている。

○戸塚委員（質問）

年度途中（10月）の開園を予定しているとのことだが、周囲の園から転園してくることを想定しているのか。

⇒子ども未来課企画係長

事業者の整備計画上10月開園となっているが、他施設からの転園については、明確なことはお答えが難しい。

○松田委員（質問）

令和4年度の量の見込みの計画の立て方についてお聞きしたい。

⇒子ども未来課企画係長

静岡市子ども・子育て支援事業計画は、令和元年度に策定した計画であり、令和4年度の量の見込みも令和元年度の計画時点の数値となっているが、今般の新型コロナウイルス感染症の影響が少なからずあると認識している。今後の量の見込みについては、令和4年度に静岡市子ども・子育て支援事業計画の見直しを行う予定のため、計画の変更の必要性についても検討していきたいと考えている。

⇒松田委員

令和3年度の子どもの状況はどうか。また、例えば来年度子どもの人数が極端に減少した場合等の対応についてはどう考えているのか。

⇒子ども未来課企画係長

令和元年度に策定した計画よりも大きく減少しており、来年度において計画通りの子どもの人数としないことは容易に想像できる状態であると認識している。また、現時点では、

子どもの計画と現実の数の乖離についての対応策はまだ検討できていないため、課内において検討していきたいと考えている。

○松田委員（意見）

事前調査会議に出席したが、事業者にヒアリングする中で、不明な点がいくつかあると感じた。市として施設整備を託す以上、不明点等についてはしっかりと解消して事業を進めていただきたい。

○大澤委員（質問）

資料1-1 事前調査会議の結果概要に記載の職員配置の状況について、特に調理員が2名となっているが、定員60人分をまかなうことができるのか。

⇒子ども未来課企画係長

事前調査会議においても、調理員を含めた職員の配置数については指摘があったところ。事業者からは、うまく回していくとの回答があり、市としては、事業者の回答を信用していきたいと考えている。

⇒子ども未来課長

先の10月開園のご質問も含めて補足をさせていただきたい。

事業者も、特に3～5歳児については、10月に開園しても定員が埋まらないと想定している。その中で職員だけを集めてしまうと経営が難しいということもあり、当面は児童数を見ながらではあるが、事前調査会議で諮った職員配置でスタートしたいという希望があった。

市としては、保育に支障が生じないように、開園後の入園状況に応じて職員配置について指導・助言をしていきたいと考えている。

○宮下委員（意見）

手を挙げてくれた事業者について、小規模保育事業所の運営実績はあるが、認定こども園の運営は初めてということもあり、色々と研究してより質の高い教育・保育をお願いしたい。

○中島委員（質問）

事前調査会議に出席し、他の委員と同様に保育内容の充実についてお願いしたところであ

る。

資料1-1 事前調査会議の結果にある計画の適格性について、「適」となっているが、評価表について、評価者が評価しにくい体系となっている。また、「適」、「不適」を評価できるようになっていないため、なぜこのような評価方法になっているのかお聞きしたい。

⇒子ども未来課企画係長

現状、複数の事業者から手上げがあった場合は、点数付けを行い、差を付けて事業者を選定している。今回のように手上げ事業者が1者となる場合、点数が低い場合であっても運営に期待できると判断すれば、会議に諮らせていただき、よほど不適格とならない限り、お断りはしていない。

ご指摘いただいたように、手上げ事業者が1者の場合で、評価点数が低い場合の対応については、今後の検討課題とさせていただきたい。

○白木会長（意見）

当該分科会が認可の決定等を行うわけではないが、各委員からこれだけの意見等が出たということについて担当課は受け止めていただいて、今後の事業者への指導・助言につなげていただきたい。

課題となった判定の問題や、コロナ禍による様々な数値の算出の問題についても実態に即して検討が必要であると感じる。

特にコロナ禍における保育士の労働環境も含めて適正な経営できるかどうかを見守っていただきたい。

■議題（3）「静岡市子ども・子育て支援プラン」及び「第2次静岡市子ども・若者育成プラン」の達成状況について

○戸塚委員（意見）

資料2-1（5）乳児家庭全戸訪問事業について、子育てトークや子育てサロンなどに参加できない方を地域で見守りたいという意見が多いため、主任児童委員も参加できる体制の整備をお願いしたい。

⇒子ども家庭課長

現状、市の保健師や委託先の助産師等が訪問させていただいているが、ありがたいご意見

をいただいたため、関係課と協議し、検討のうえ回答させていただきたい。

○岡本委員（質問）

資料２－２プラン22について、放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的な実施が67校で達成となっているが、達成できていない学校については、何か理由等あるのか。

⇒教育総務課長

放課後子ども教室については、地域で実施主体を作っていただき、受け皿を整備している。未設置校については、これらの実施主体が整っていない状況である。

なお、放課後子ども教室については、市内で81校に設置しており、現在未設置となっているのが足久保、美和小学校の2校となっている。また、井川地区は児童が居ないため運営していない。

○糠谷委員（意見）

資料２－１（３）総合的な放課後子ども対策の推進について、達成状況評価通りの達成を感じているところである。一方で、放課後児童クラブについては、夏休み期間等の長期休暇中も実施しているが、放課後子ども教室は長期休暇期間に実施していない現状がある。自宅で一人で過ごし、休みが楽しくないという児童もいるため、「放課後」という部分を長期休暇等にも拡大して考えていただきたい。

○三森委員（意見）

資料２－２プラン171「ひきこもり対策推進事業」について、義務教育から高等教育に移る際に申し送りがうまくできていない部分があること、また移行時に支援が途切れてしまうため、継続的な支援が大切であると感じている。

例えば中学校時代に不登校となり、通信制の高等学校等に進学した後、20歳前後で引きこもりセンターに相談に来るといったケースもある。20代になる前の貴重な数年間で支援が途切れてしまうことがあるため、学校等とも連携し、成長に応じた支援を継続的に行うことを考えていただきたい。

○下山委員（質問）

放課後児童クラブについては、コロナ禍において通ってくる児童もそうだが、運営してい

る職員等の健康管理、安全確保も大切であると感じている。その中で、令和2年の年度末に新型コロナウイルス感染症対策として、空気清浄機等の物的支援をしていただいたことに感謝申し上げる。

今般課題になっていることの1つに、ヤングケアラーの問題がある。昨年末に国の実態調査があり、支援策として早期発見、相談支援について言及されているところ、本市の把握状況や、現場への指導状況はどうなっているのかお聞きしたい。

⇒子ども家庭課長

実態把握については、令和元年度末に市立の小・中学校の教員を対象に調査を実施したところである。国の調査結果よりも低い割合であったと記憶している。

現状、ヤングケアラーに特化した相談窓口は設置しておらず、各区役所の相談窓口等の個別窓口で事例があれば個々に対応している。今年の6月定例会においても議員から質問があったところであり、今後の支援体制については、関係課と検討を進めていきたい。

⇒下山委員

神戸市では全国初のヤングケアラー専門の相談窓口を設置していたり、また山梨県では全小中学生を対象に調査を実施している。今後の実態把握や相談窓口についてもお願いしたい。

■白木会長総括

各委員から貴重なご意見をいただいたため、関係各課においては受け止めをお願いしたい。

行政計画については、コロナ禍での進捗管理の難しさを感じている。場合によっては、事業の見直し等も必要になるかと思うので、引き続き当分科会においても検討していきたい。